

幼児における音楽の好みについて (I)

西垣 吉之

(兵庫教育大学大学院)

目的

現在、幼児教育の現場で歌われたり、演奏されたりする曲の選択はどのようになされているのだろうか。あるいは、現在出版されている歌曲集等の選択基準はどこにあるのか。おそらく現場においても、あるいは選曲集の編者にしても、その経験知から選曲しているのが実状ではないだろうか。決してこのことは、経験知というものを否定しているわけではない。むしろ、子どもの生き生きとした姿から教えられることのほうが多いのも事実である。しかし、我々は、こうした選曲という行為を、もう少し、科学的、分析的に推し進めていく必要はないだろうか。子どもがどのような曲を好み、どのような曲に興味を示さないのかを分析的に見ていくことは、カリキュラム作成の上でも役立つのではないか。このように、曲を分析し現場での選曲の指標を求めようとするのが、研究の目的である。

本研究では、子どもの好む曲の実態調査、及びその実態調査に基づく男女間の曲の好みの差について調査していくことにする。

方法

まず、幼児が現実に好む曲を調べるため、養育者に対する実態調査を実施した。

調査日 昭和60年11月19日

対象 岐阜市内 K保育園児の養育者

(内訳) 男子 女子 計

年少児	49	33	82 (3歳8ヵ月-4歳7ヵ月)
			平均 4歳2ヵ月)

年中児	47	55	102 (4歳8ヵ月-5歳7ヵ月)
			平均 5歳2ヵ月)

年長児	54	39	93 (5歳8ヵ月-6歳7ヵ月)
			平均 6歳3ヵ月)

150 127 277人

調査方法 子どもが好む曲を、あらゆるジャンルから(クラシック、童謡、歌謡曲、マンガの

主題歌、CM音楽等)、家庭での養育者の観察により自由記述してもらった。その際、選択基準として以下のようなことを書きそえた。

- * よく口ずさむ歌
- * よく口ずさむメロディー
- * 聞いて自然に身体を動かす曲
- * オルガン等でよく弾く曲 等

結果と考察

今回のアンケート調査では、養育者の観察による自由記述によって様々なジャンルから曲が挙げられた。

中には曲名がわからず、歌詞等により挙げられていたものもあったが、判別できうる限りの曲を集計したところ、全体で229曲目(一養育者あたり平均12.4曲)が『子どもの好きな曲』として挙げられた。

本研究では、まず、1曲目に対する選択人数を高いものから順序づけすることによって、その上位90位までのものを対象に考察を進めることにする。

(1) 幼児に好まれる曲のジャンル

表Ⅰ-1で示されるように、今回挙げられた曲のジャンルを、次の5種類に分類した。

- ア) テレビマンガに関する曲。。。マンガのテーマソングやエンディングテーマ等
- イ) 童謡。。。この中にはわらべうたを含めた
- ウ) テレビ挿入歌。。。マンガ番組以外のテレビ番組で放送されている曲(例、おかあさんといっしょ=NHK・ひらけポンキッキ=フジテレビ等の中で使われている歌)
- エ) 園生活で使われる曲。。。調査した園で使われている『生活の歌』や体操の歌
- オ) 歌謡曲 以上5分類

また、それぞれのジャンルに対し、選択曲目数・選択のべ人数・各ジャンルの選択のべ人数の比率を示した。尚、各太枠(以下ブロック)ごとの選択曲目数の

計(90)は、それぞれの年齢・性・あるいは全体(性を考慮に入れず子ども全体としてとらえた場合)の選択人数を順序づけして、上位90位までを選んだものである。

考察a) この表においてまず、特徴的なことは、このようなジャンルに分類した場合、幼児の曲に対する好みは、『テレビマンガに関する曲』及び『童謡』の2つのジャンルに顕著にあらわれているということである。選択のべ人数の比率をみても、どのブロックも、両ジャンルを加えると、90%前後の高率を示していることがわかる。童謡が子どもの生活の中にこれほど浸透しているということは、さほど意外なことではないが、テレビという視覚的媒体が子どもの経験する音楽というもののなかで果たしている役割は見逃すことができないと考える。

(2) 幼児の曲の好みと男女差

ここでは、特に『テレビマンガに関する曲』と『童謡』への好みにみられる男女差について比較する。

考察b) 年長児・年中児において『テレビマンガ

に関する曲』と『童謡』への好みを、比率をもとに男女間で比較したところ、男子は両年齢を通じて『テレビマンガに関する曲』に対する好みは『童謡』に対する好みよりも顕著であるのに対し、女子では逆に『童謡』に対する好みはより強い傾向にあるといえる。

考察c) 3年齢の男女全体のブロックについても男女間で考察bと同様のことがいえる。

考察d) 年少児の男子においては『テレビマンガに関する曲』と『童謡』への好みに、さほど差がないようであるが、女子においては、年長児や年中児と同様に、『童謡』に対する好みは顕著である。

問題点

A) 現在の保育現場でもちいられている童謡は、女子に、より多く好まれるものが多いのではないかな。

B) マンガ音楽を子どもが好んで歌っているという実態から、それらを教材として取り入れていく必要はないのだろうか。

C) 男女間の曲に対する好みの差をどのように取扱っていかなければならないのか。

学 年		年 長						年 中						年 少						全 体					
曲目のジャンル		ア	イ	ウ	エ	オ	計	ア	イ	ウ	エ	オ	計	ア	イ	ウ	エ	オ	計	ア	イ	ウ	エ	オ	計
男 子	選択曲目数(曲)	27	49	8	3	3	90	26	52	6	4	2	90	27	43	8	9	3	90	28	47	7	6	2	90
	選択延人数(人)	301	179	27	5	7	519	315	210	22	9	3	559	231	200	20	25	7	483	846	554	62	34	12	1508
	比 率 (%)	58.0	34.5	5.2	1.0	1.3	100.0	56.3	37.6	3.9	1.6	0.5	100.0	47.8	41.4	4.1	5.2	1.4	100.0	56.1	36.7	4.1	2.3	0.8	100.0
	調査人数(人)	54						47						49						150					
女 子	選択曲目数(曲)	22	51	6	7	4	90	22	55	7	4	2	90	23	52	6	6	2	90	20	57	6	5	2	90
	選択延人数(人)	150	262	20	22	17	471	245	382	35	10	6	678	135	218	16	15	3	387	513	856	64	40	15	1488
	比 率 (%)	31.8	55.6	4.2	4.7	3.6	100.0	36.1	56.3	5.2	1.5	0.9	100.0	34.9	56.3	4.1	3.9	0.8	100.0	34.5	57.5	4.3	2.7	1.0	100.0
	調査人数(人)	39						55						33						127					
男 女	選択曲目数(曲)	24	48	7	7	4	90	28	51	7	3	1	90	24	47	8	9	2	90	23	54	7	5	1	90
	選択延人数(人)	440	420	44	29	23	956	555	574	55	15	4	1203	357	404	36	42	7	846	1311	1378	124	70	15	2918
	比 率 (%)	46.0	43.9	4.6	3.0	2.4	100.0	46.1	47.7	4.6	1.2	0.3	100.0	42.2	47.8	4.3	5.0	0.8	100.0	44.9	47.9	4.2	2.4	0.5	100.0
	調査人数(人)	93						102						82						277					

表
I
1

注*ジャンルのア)イ)ウ)エ)オ)は考察(1)のジャンル分類に同じ

*比率は、各ジャンルごとの選択延人数/選択延人数の計を表す